

机の秋葉大権現

(若土)

机集落の南端、竹藪の中の山小道を登って行くと、中腹に秋葉大明神（大権現）の石祠が、小鴨川に向かって二基並べて祀られている。

若土は昔、若洲^{わかす}とも言われ、小鴨川の流れによって、堆積した土地にできた村であり、古くから度々洪水に見舞われ、水害にあった。防水・防火に対する神仏への願いが強かった。



右側の祠：安永2年（1773）の願文に、^{てんちようちぎゆううぶこあんぜん}「天長地久産子安全」とあり、天地が永久にかわることなく物事が続き、村人が安全に暮らしたいとの願いが書かれている。

左側の祠：棟札が数枚あり、明治23年（1890）の願文には^{てんのまな井}「天之真名井^{せいけつ}・元水^{がんすい}降玉布^{ふりたまふ}」とあり、清潔な飲料水を願望している。

本来秋葉神は、火の神であり、鍛冶、焼き物、金属加工などの守護神で、防火、防災、火難除けなどの神徳があるとされている。

秋葉神は「大明神」と称えたが、[※]神仏習合の時代は「大権現」と仏教的な神号で呼ばれ、神仏分離で「秋葉神社」と改称した。

(注)

神仏習合：奈良時代に始まり、日本固有の神の信仰と、仏教信仰が融合、調和すること。